

沖縄に流入する外国人 MSM の予防行動に関する研究

研究分担者：健山正男（琉球大学大学院医学研究科 准教授）

研究協力者：nankr 沖縄

研究要旨

本研究の目的は、国内外からのツーリストが多い沖縄県において、沖縄県を訪れる外国籍 MSM の感染リスク行動を明らかにするための多言語対応の MSM 向け HIV 感染リスク行動調査の質問紙を作成することである。過去の MSM を対象にコミュニティベースで実施されてきたアンケート項目をすべて収集し、外国籍 MSM に対して尋ねるべき項目を選択する作業を実施した。

日本における外国籍 MSM における新規 HIV 感染者、新規 AIDS 患者報告数は近年増加しており、日本を訪問する外国籍 MSM の実態把握、予防行動の実態把握と対策の考案は急務である。

初年度は、外国籍 MSM が回答可能な多言語アンケートシステムの構築を行い、今年度は調査を試行した。その結果、回答者数が少なく、今後も継続して調査を実施する必要があるが、日本での性行動は日本の MSM と同程度行われている一方で、日本における HIV 検査の情報が浸透しておらず、検査機会が少ない状況であることが示唆された。そのため最終年度は、外国人 MSM を対象として HIV 検査に関する支援環境を整えることを進めた。

A. 研究目的

本研究の目的は、国内外からのツーリストが多い沖縄県において、沖縄県を訪れる外国籍 MSM の感染リスク行動を明らかにするための多言語対応の MSM 向け HIV 感染リスク行動調査の質問紙を作成し、ニーズを把握することである。

B. 研究方法

過去の MSM を対象にコミュニティベースで実施されてきたアンケート項目をすべて収集し、外国籍 MSM に対して尋ねるべき項目を選択する作業を実施した。性指向、出身国、年齢、職業、などの基礎項目、過去 6 か月に使用したゲイ向け商業施設、生涯や過去 1 年の HIV 検査行動、性行動など 25 問である。アンケートの依頼文、質問項目については、英語版のみならず、中国語版も作成し、多言語に対応したものとした。質問項目一覧は資

前年度報告書に添付したとおりである。

C. 研究結果

初年度に開発、作成したアンケートシステムを活用し、2 年目は日本に滞在する外国籍 MSM の実態調査を試行した。

得られた回答は 55 人で、そのうち男性 44 人（80.0%）で女性 11 人（20.0%）であった。44 人を対象にこれ以降の分析を進めた。

44 人の回答者のうち、出身国をアメリカ、フランス、ドイツ、イタリアなどの欧米と回答した人は 25 人（56.8%）、韓国、中国などアジアと回答した人は 5 人（11.4%）、日本と回答した人は 14 人（31.8%）であった。

さらに国籍を欧米、アジア、日本に分類し分析を進めた。回答者の平均年齢±標準偏差は欧米 30.0±7.2 歳、アジア 33.0±1.9 歳、日本 32.4±7.3 歳であった。ゲイであると回答した割合は欧米 72.0%、アジア 100%、日本

71.4%であった。

国籍別に HIV 検査に関して回答した内容を表 1、表 2 にまとめた。滞在期間について、欧米国籍は様々であり、3 か月未満で 60%を占め、1 年～5 年も 24.0%であった。アジアはすべてが 1 週間以内で、来日目的は旅行であった。過去 6 か月間に、日本でセックスをした経験については有意差はみられず、欧米 60.0%、アジア 40.0%、日本は 71.4%であった。

表 1 国籍別 基本属性

	国籍			合計 n=44	Pearson の カイ 2 乗
	欧米 n=25	アジア n=5	日本 n=14		
あなたは日本にどれくらい滞在していますか (通算) ?					
1週間以内	3 12.0%	5 100.0%	0 0.0%	8 18.2%	<0.01
1か月未満	5 20.0%	0 0.0%	1 7.1%	6 13.6%	
1か月～3か月	7 28.0%	0 0.0%	0 0.0%	7 15.9%	
3か月～1年	3 12.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 6.8%	
1年～5年	6 24.0%	0 0.0%	0 0.0%	6 13.6%	
10年以上	1 4.0%	0 0.0%	13 92.9%	14 31.8%	
日本に来た目的を教えてください。					
日本生まれ	0 0.0%	0 0.0%	10 71.4%	10 22.7%	<0.01
留学、研修など	9 36.0%	0 0.0%	0 0.0%	9 20.5%	
仕事で	7 28.0%	0 0.0%	1 7.1%	8 18.2%	
旅行で	7 28.0%	5 100.0%	1 7.1%	13 29.5%	
その他	2 8.0%	0 0.0%	2 14.3%	4 9.1%	
あなたは、過去 6 か月間に、日本でセックスをしたことがありますか。					
ある	15 60.0%	2 40.0%	10 71.4%	27 61.4%	0.45
ない	10 40.0%	3 60.0%	4 28.6%	17 38.6%	

表 2 国籍別 検査行動

	国籍			合計 n=44	Pearson の カイ 2 乗
	欧米 n=25	アジア n=5	日本 n=14		
あなたは日本に来てから HIV や性感染症の検査を受けたいと思ったことがありますか？					
ある	9 36.0%	1 20.0%	12 85.7%	22 50.0%	<0.01
ない	16 64.0%	4 80.0%	2 14.3%	22 50.0%	
あなたは、日本では、保健所で HIV 検査を無料・匿名で受けられることを知っていますか？					
知っている	7 28.0%	0 0.0%	11 78.6%	18 40.9%	<0.01
知らない	18 72.0%	5 100.0%	3 21.4%	26 59.1%	
あなたはこれまでに HIV 検査を受けたことがありますか？					
ある	22 88.0%	3 60.0%	10 71.4%	35 79.5%	0.24
ない	3 12.0%	2 40.0%	4 28.6%	9 20.5%	
あなたは日本で HIV 検査を受けたことがありますか？					
ある	5 20.0%	0 0.0%	8 57.1%	13 29.5%	0.02
ない	20 80.0%	5 100.0%	6 42.9%	31 70.5%	

日本国籍 (85.7%) と比べ、日本に来てから HIV や性感染症の検査を受けたいと思ったことがある割合は欧米 36.0%、アジア 20.0%と低かった ($p<0.01$)。一方で日本では、保健所で HIV 検査を無料・匿名で受けられることを知っている割合も同様で、日本 78.6%に比べ、欧米 28.0%、アジア 0.0%であった ($p<0.01$)。これまでに HIV 検査を受けたことがある割合は 60.0%～88.0% ($p=0.24$) と変わらない一方で、日本で HIV 検査を受けたことがある割合

は、日本 57.1%に比べて、欧米 20.0%、アジア 0.0%と低かった ($p=0.02$)。

D. 考察

日本における外国籍 MSM における新規 HIV 感染者、新規 AIDS 患者報告数は近年増加しており、日本を訪問する外国籍 MSM の実態把握、予防行動の実態把握と対策の考案は急務である。沖縄県は、MSM 向けツーリズムの受け入れ先として人気が高く、多くの日本国籍 MSM が沖縄県を訪問している実態を H27, H28 年度に実施した研究で示した。

2018 年の暦年 (1～12 月) の入域観光客数が前年比 4.7%増 (44 万 6200 人増) の 984 万 2400 人になったと発表した。台風や麻疹 (はしか) の影響で前年割れの月があったものの、6 年連続で過去最高を更新した。国籍別にみると、台湾が 13.0%増の 88 万 9700 人、韓国が 6.2%増の 55 万 5500 人、中国が 25.5%増の 63 万 2400 人となっており、近隣アジア国からの観光客が多いことが想定される。初年度に開発、作成したアンケートシステムを活用し、2019 年には、日本に滞在する外国籍 MSM の実態調査を試行した。

その結果、回答者数が少なく、今後も継続して調査を実施する必要があるが、日本での性行動は日本の MSM と同程度行われている一方で、日本における HIV 検査の情報が浸透しておらず、検査機会が少ない状況であることが示唆された。

E. 結論

日本における外国籍 MSM における新規 HIV 感染者、新規 AIDS 患者報告数は近年増加しており、日本を訪問する外国籍 MSM の実態把握、予防行動の実態把握と対策の考案は急務である。外国籍 MSM が回答可能な多言語アンケートシステムの構築を行い、今年度は調査を試行した。またアジア圏の来日者の急増も鑑み、中国語でも回答可能なアンケートを構築した。最終年度も調査を継続す

る予定であったが、コロナ禍のため実施が困難であった。そのため最終年度は、外国人 MSM を対象として HIV 検査に関する支援環境を整えることを進めた。

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) 金子典代, 塩野徳史, 本間隆之, 岩橋恒太, 健山正男, 市川誠一: 地方都市在住の MSM (Men who have sex with men) における調査時点までと過去1年の HIV 検査経験と関連要因. 日本エイズ学会誌, 2019, 21(1)
- 2) Kami-Onaga K, Tateyama M, Kinjo T, Parrott G, Tominaga D, Takahashi-Nakazato A, et al. Comparison of two screening tests for HIV-Associated Neurocognitive Disorder suspected Japanese patients with respect to cART usage. PloS one. 2018;13(6)

2. 学会発表

- 1) 和田秀穂, 塩野徳史, 徳永博俊, 竹内麻子, 健山正男, 市川誠一, 金子典代: 中国四国地方におけるより感染リスクの高い MSM 層の実態把握と HIV 抗体検査受検経験に関するコミュニティアンケート調査, 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 2) 岩橋恒太, 金子典代, 高野操, 岡慎一, 本間隆之, 健山正男, 市川誠一, 荒木順子, 木南拓也, 高久道子, 生島嗣, 佐藤郁夫, 福原寿弥, 林田庸総, 中山保世, 小日向弘雄, 今村顕史: MSM を対象とする、郵送検査手法を用いた新たな HIV 検査機会としての「HIVcheck.jp」の取り組み. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 3) 宮城京子, 豊里竹彦, 前田サオリ, 健山正男, 大嶺千代美, 藤田次郎: 沖縄県内訪問看護師の HIV 感染患者の受け入れ意識に関連する要因の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集

会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4

- 4) 上薫, 健山正男, 金城武士, Parrott Gretchen, 富永大介, 高橋愛, 仲村秀太, 宮城京子, 前田サオリ, 藤田次郎: 日本人における、2つの HIV 関連認知機能障害スクリーニング検査の cART 非投与群と投与群の比較. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 5) 岡崎玲子, 蜂谷敦子, 佐藤かおり, 豊嶋崇徳, 佐々木 悟, 伊藤俊広, 林田庸総, 岡 慎一, 潟永博之, 古賀道子, 長島真美, 貞升健志, 近藤真規子, 椎野禎一郎, 須藤弘二, 加藤真吾, 谷口俊文, 猪狩英俊, 寒川 整, 加藤英明, 石ヶ坪良明, 中島秀明, 吉野友祐, 太田康男, 茂呂寛, 渡邊珠代, 松田昌和, 重見 麗, 岩谷靖雅, 横幕能行, 渡邊 大, 小島洋子, 森 治代, 藤井輝久, 高田清式, 南 留美, 山本政弘, 松下修三, 健山正男, 藤田次郎, 杉浦 互, 吉村和久, 菊池 正: 国内新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV-1 の動向. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 6) 笠島志穂, 山城朋子, 健山正男, 仲村秀太, 山入端一貴, 兼久 梢, 新垣若子, 鍋谷大二郎, 藤田次郎: 上気道閉塞のリスクを有するカポジ肉腫の治療経験症例. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 7) 上原 仁, 諸見牧子, 与那覇房子, 外間惟夫, 前田サオリ, 宮城京子, 石郷岡美穂, 大城市子, 辺士名優美子, 上 薫, 仲村秀太, 中村克徳, 健山正男, 藤田次郎: 腸瘻からの cART 投与において血中濃度測定を行い用量調整した一例. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 8) 西原一秀, 平野惣大, 健山正男, 前田サオリ, 宮城京子, 藤田次郎, 新崎 彰: 沖縄県歯科医療従事者の HIV/AIDS 患者歯科診療に対するアンケート調査の検討. 第 32 回日本エイズ学会学術集会・総会, 大阪, H30. 12. 2-4
- 9) 健山正男: 沖縄県における HIV の現況. 九州医師連合会 HIV 医療講演会 2018

- 10) 兼久 梢, 健山正男, 鍋谷大二郎, 喜友名朋, 新里 彰, 新垣若子, 宮城一也, 原永修作, 藤田次郎 : 免疫再構築に伴う病変増大が疑われた HIV 関連トキソプラズマ脳症の一例. 第 92 回日本感染症学会学術集会 2018. 6. 1 感染症学雑誌 92 357 2018
- 11) 原永修作, 西山直哉, 鍋谷大二郎, 金城武士, 宮城一也, 健山正男, 藤田次郎 : 男性同性愛者に発症し化膿性扁桃炎として診断・治療された扁桃梅毒の 1 例と case review. 第 92 回日本感染症学会学術集会 2018. 6. 1 感染症学雑誌 92 284 2018
- 12) 石原美紀, 健山正男, 渡嘉敷良乃, 鍋谷大二郎, 金城武士, 宮城一也, 藤田次郎 : HIV 新規診断症例においてインテグラーゼ領域に P145S を検出した一例. 第 92 回日本感染症学会学術集会 2018. 6. 1 感染症学雑誌 92 375 2018

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得
なし。
2. 実用新案登録
なし。
3. その他
なし